

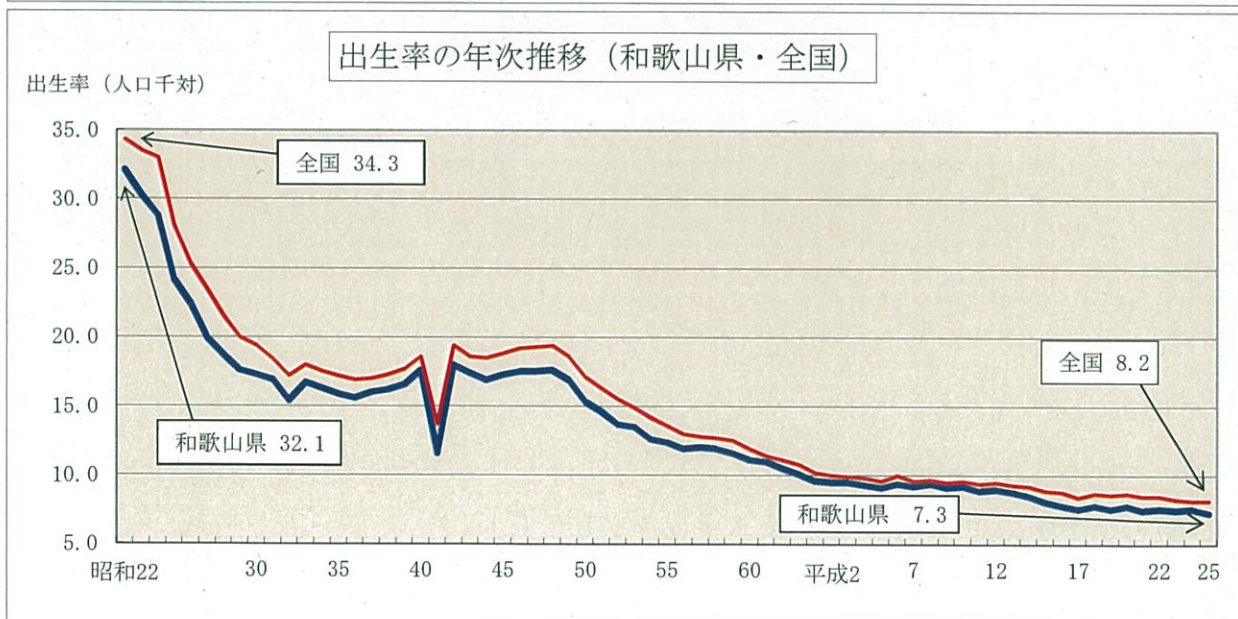
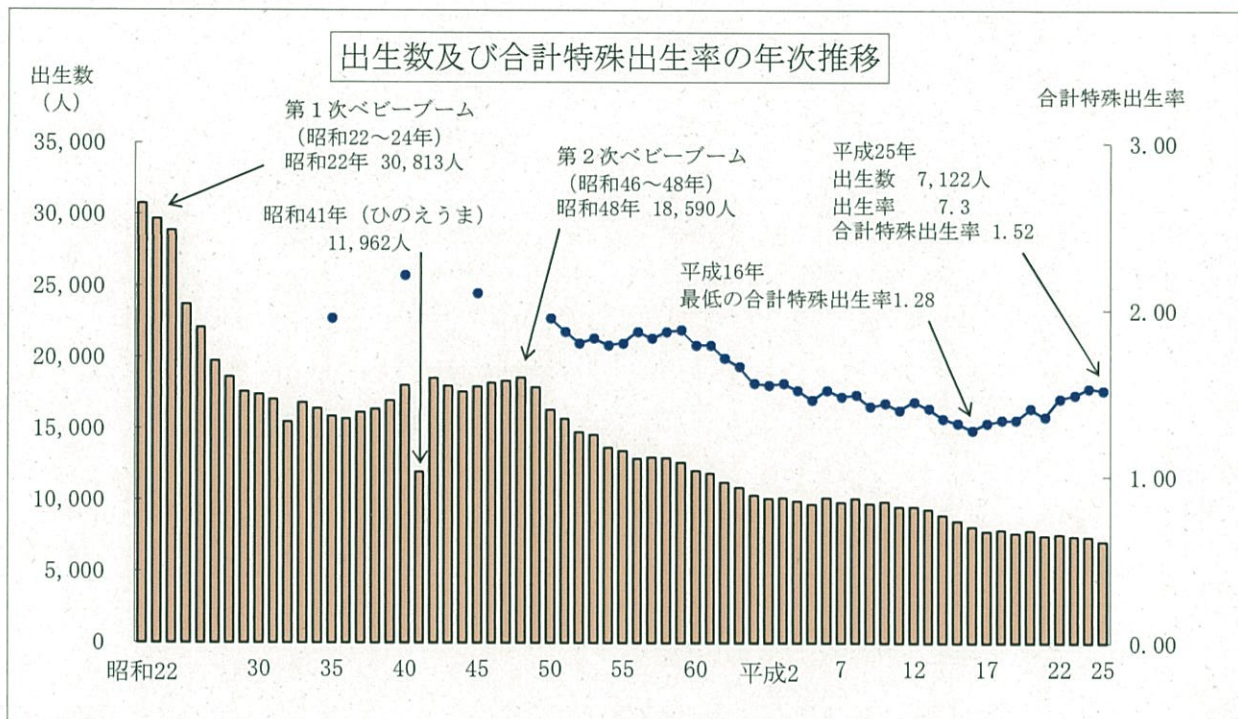
Ⅲ. 結果の概要

1 出生

平成 25 年の出生数は 7,122 人で、前年の 7,424 人より 302 人減少した。

出生率（人口千対）は 7.3 で、前年の 7.6 を下回った。また、合計特殊出生率は 1.52 で、前年の 1.53 を下回った。

昭和 50 年以降、出生数は減少を続け、平成に入ってから、増加と減少を繰り返しながら減少傾向にある。



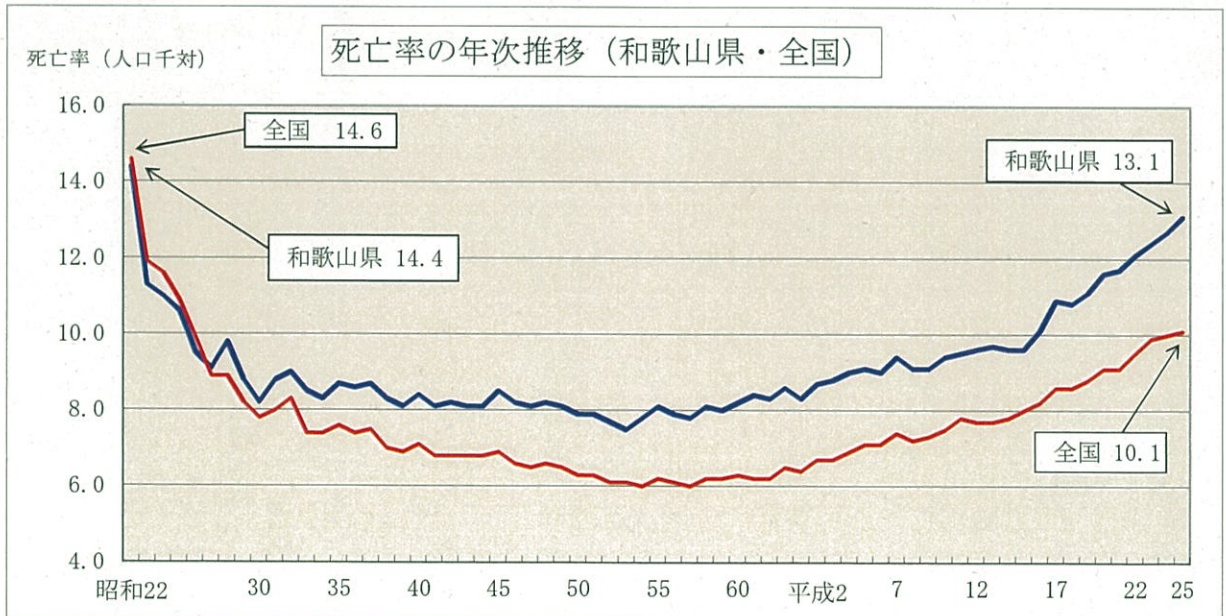
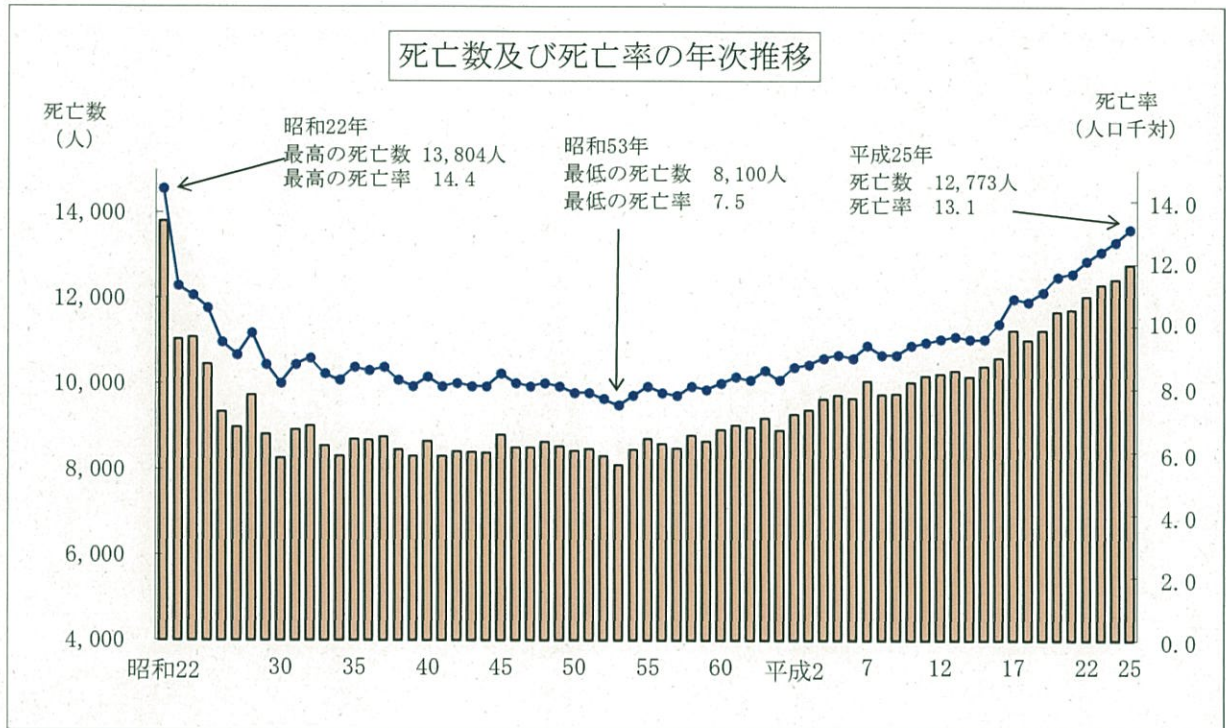
2 死亡

(1) 死亡数・死亡率

平成 25 年の死亡数は 12,773 人で、前年の 12,435 人より 338 人増加した。

死亡率（人口千対）は 13.1 で、前年の 12.7 を上回った。

昭和 26 年以降は 8,000 人前後で推移していたが、平成 7 年及び平成 10 年以降は 1 万人以上となり上昇傾向にある。



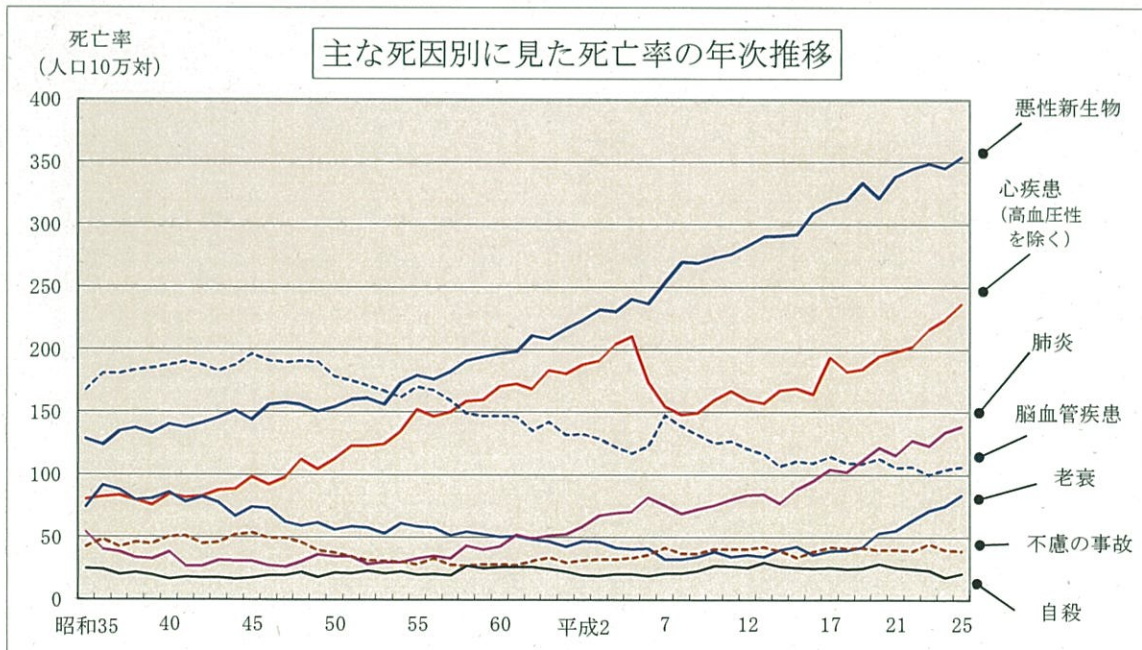
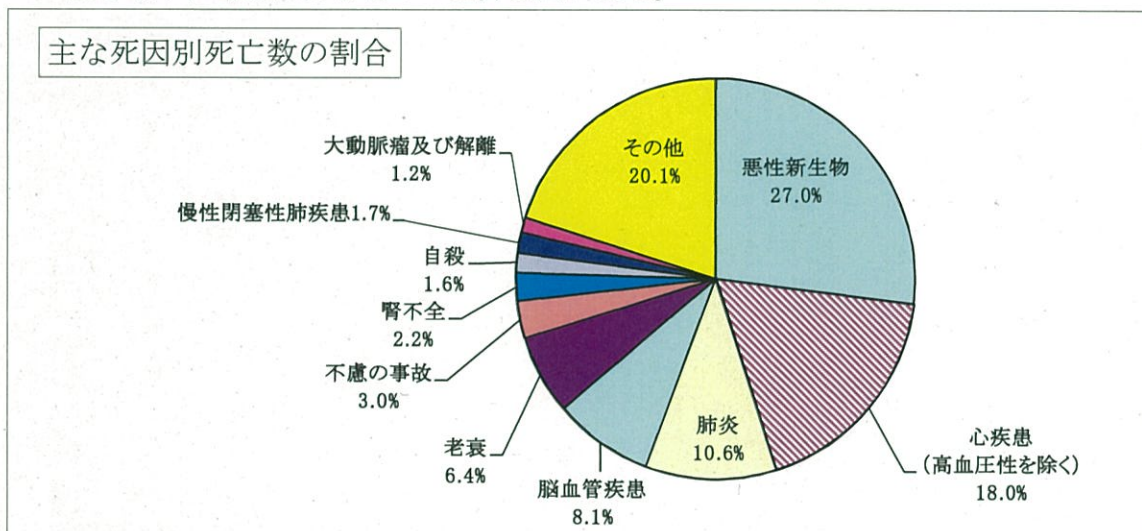
(2) 死因別死亡

死因別に見ると、死因順位の第1位は悪性新生物、第2位は心疾患（高血圧性を除く）、第3位は肺炎であり、全死亡者に占める割合は、それぞれ27.0%、18.0%、10.6%となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物は、昭和54年以降第1位で上昇しており、平成25年の人口10万人当たり死亡率は353.9で、前年の345.3より8.6ポイント上がった。

心疾患（高血圧性を除く）は昭和58年に脳血管疾患に変わって第2位となり、増減はあるものの死亡数・死亡率とも上昇傾向にある。

肺炎は平成18年まで第4位であったが、平成19年からは脳血管疾患に変わって第3位となり、増減はあるものの上昇傾向にある。

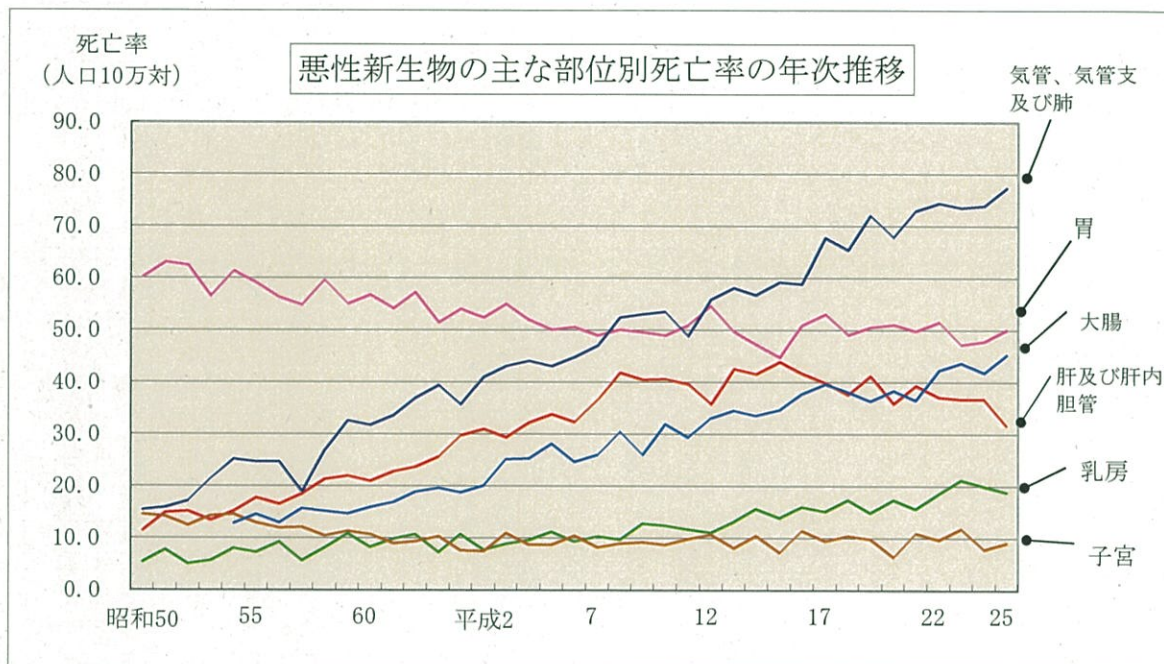


(3) 部位別に見た悪性新生物

悪性新生物での死亡数は3,451人であり、前年の3,394人よりも57人増加した。

死亡率を部位別に見ると、1位「気管、気管支及び肺」2位「胃」3位「大腸」となっている。

「気管、気管支及び肺」は、平成8年にはじめて「胃」を上回り、平成11年を除き1位となっている。



注) ①「大腸」は昭和54年からの分類である。

注) ②「乳房」「子宮」は女性10万人対の死亡率である。

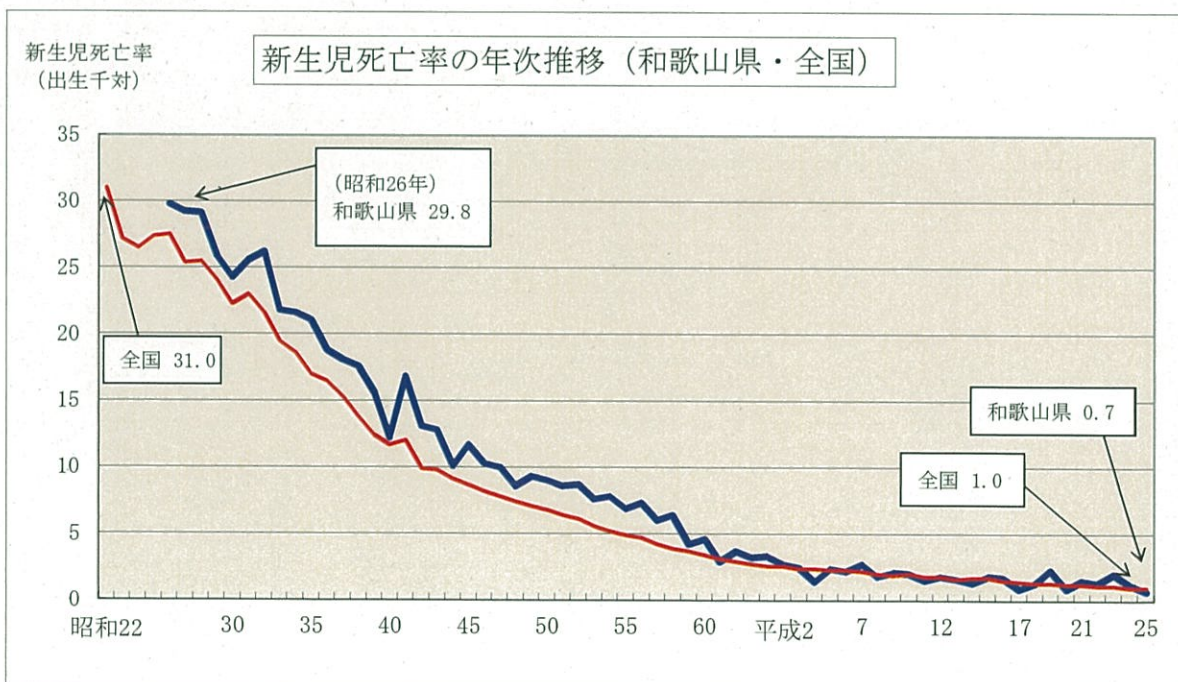
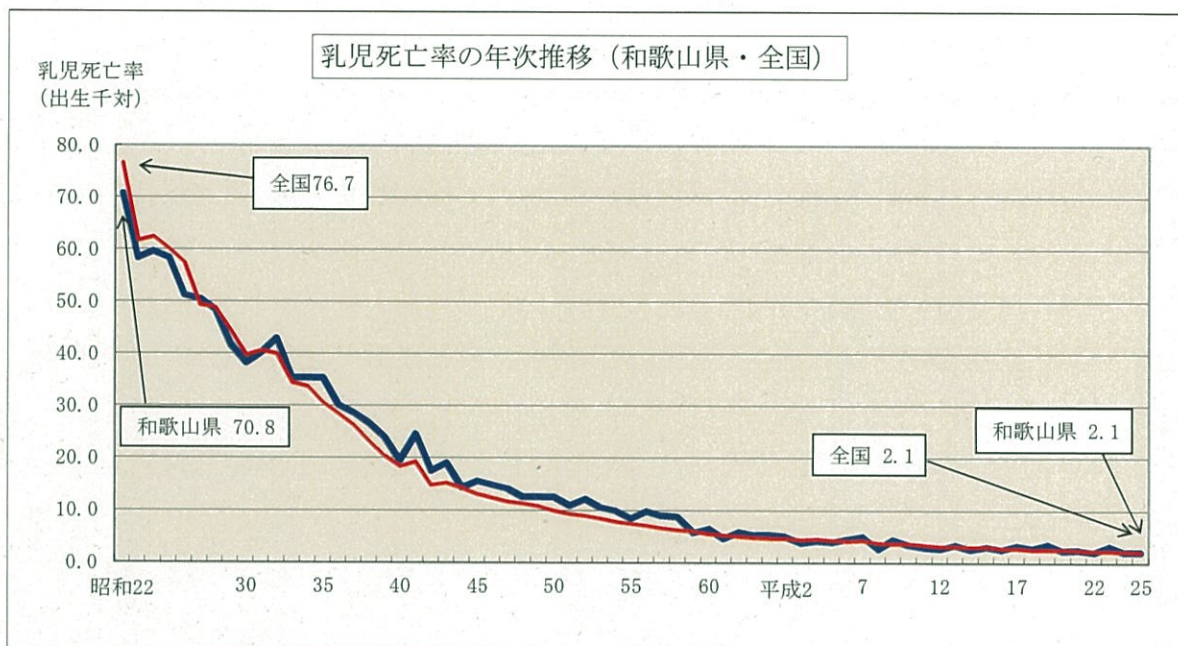
(4) 乳児死亡、新生児死亡

平成 25 年の乳児死亡数は 15 人で、前年の 15 人と同数だった。

乳児死亡率（出生千対）は 2.1 で、前年の 2.0 を上回った。

また、平成 25 年の新生児死亡数は 5 人で、前年の 9 人より 4 人減少した。

新生児死亡率（出生千対）は 0.7 で、前年の 1.2 を下回った。



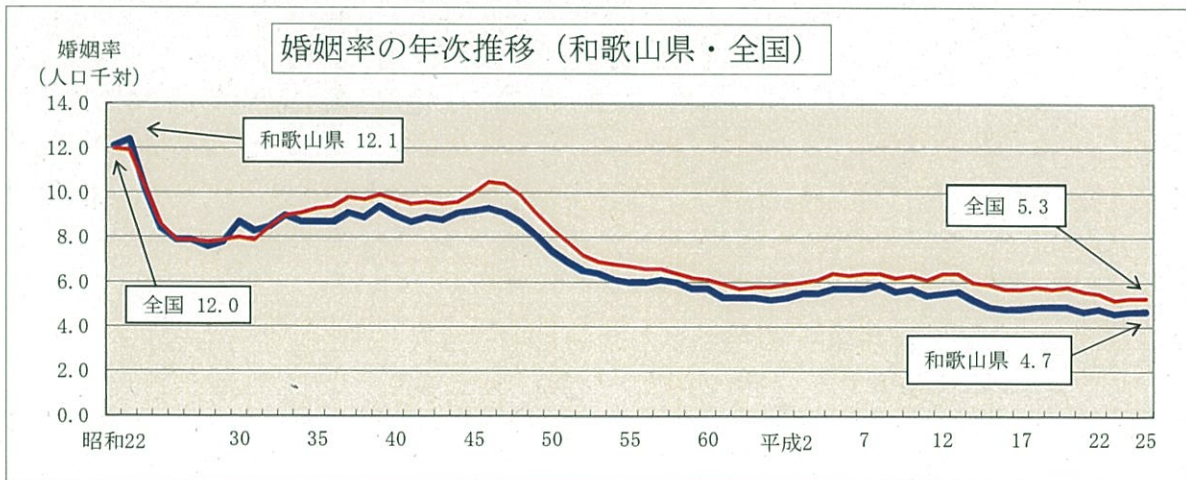
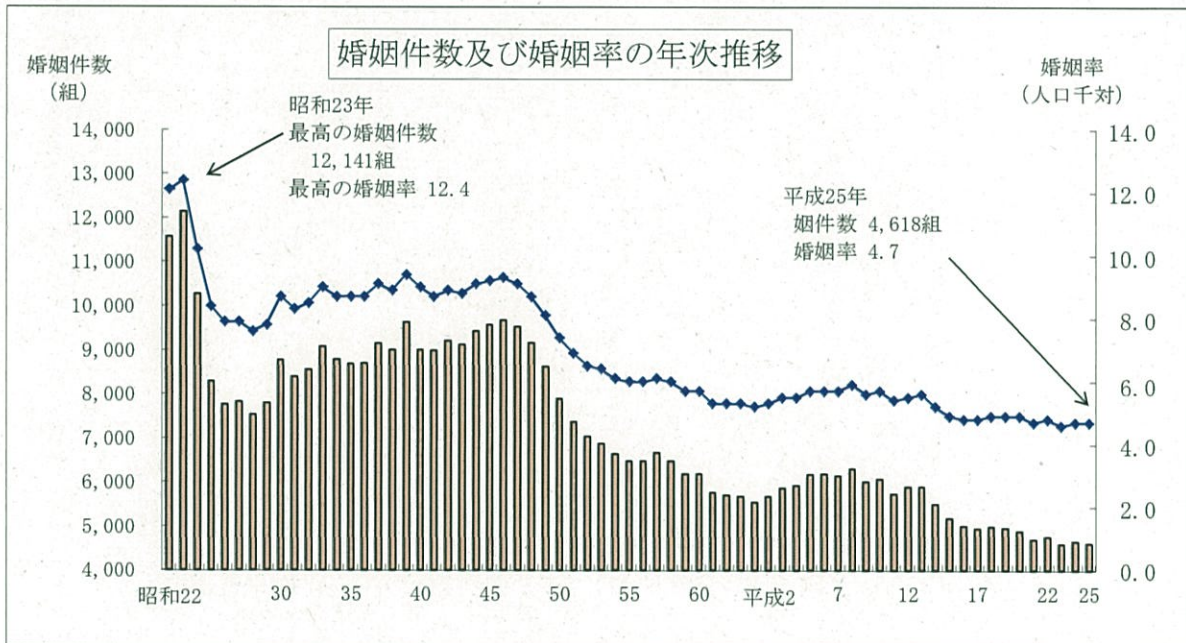
3 婚姻

平成 25 年の婚姻件数は 4,618 組で、前年の 4,664 組より 46 組減少した。

婚姻率（人口千対）は 4.7 で、前年の 4.7 と同率だった。

昭和 23 年以降、婚姻件数は急激に減少し、昭和 30 年から 40 年代前半には 9,000 組前後で推移していたが、昭和 46 年以降は再び減少傾向となった。平成元年からは緩やかな増減を繰り返していたが、平成 14 年からは連続で減少し、平成 18 年は 5 年ぶりに増加した。しかし、その後は減少し、平成 22 年以降は、増加と減少を繰り返している。

平成 25 年の平均初婚年齢は、夫 30.2 歳、妻 28.6 歳となり、前年と比べて夫は 0.2 歳上昇し、妻は同数だった。



4 離婚

平成 25 年の離婚件数は 1,961 組で、前年の 1,959 組より 2 組増加した。

離婚率（人口千対）は 2.01 で、前年の 1.99 を上回った。

昭和 37 年以降、離婚件数は緩やかな増加を続け、昭和 59 年から減少するが、平成元年以降は急激に増加。平成 14 年をピークに減少傾向にあるが、平成 23 年から増加。

